

# 方 漢 才 ハ イ ニ か いた た の と 症 染 感

太古から、ヒトは病  
気とたたかってきた。中  
でもウイルスや細菌によ  
る感染は、周  
囲を巻き込んで、広  
がっていきます。

中国後漢時代の傷寒

論という本には、強い  
寒気から始まる一連の  
症状と変化、対応する  
治療法が詳細に記載さ  
れています。寒気から  
始まることから、こう  
いった感染症を傷寒病  
と呼んでいます。  
時代が下り、明・清の  
時代になると、熱感の

強い感染症が増えると  
ともに、その治療法が  
確立していきます。

私たちの周りでも、  
ここ20年程で寒気を訴  
える風邪が随分と減少

し、のどの痛みや熱つ

ぼさなど高熱を伴う感  
染症が激増していま  
す。こういった感染症

は温病と呼びます。

中医学ではこういっ

た違いは必ずしもウイ  
ルスの種類だけが原因  
ではなく、体質や環境

から影響を受けている  
と考えています。

治療法も両者は大き  
く異なります。傷寒病

が葛根湯の様に体を温

めて発汗させて治療す  
るのに対し、温病では  
直接ウイルスを抑制し、

炎症を鎮めるような薬

草が用いられます。

代表的な薬草は、板

藍根や金銀花などです。

身近な製品に天津感冒

片や涼解薬、板藍茶な

どがあり、これらの薬

草はインフルエンザウ

イルスなど様々なウイ

ルスに対する抑制効果  
が確認されています。中

でも板藍根はSARS  
でも予防目的で随分使  
われ、本場中国でも品  
切れを起こしたほどで  
した。

現在、解熱薬は  
4片と解熱散、  
令和では銀翹散、  
感冒には銀翹散、  
天津感冒散、  
製造商は金  
代替金翹散、  
銀方効

中国政府認定国際中醫師  
恒康堂薬局 中瀬 佐知夫  
枚方市伊加賀本町 1-16  
TEL : 072 (841) 0325  
FAX : 072 (841) 0326  
URL : //www.cocodo.com/